新入社員・若手社員に伝えたいこと

自動化が進む、次世代の製造現場職人の生存戦略

大髙晃洋
㈱大髙製作所

金型現場で30年、アナログからデジタルへの変遷の実態

筆者はダイカスト製機械部品を成形する金型を設計・製造する零細町工場の2代目です。約30年前、高校3年生のときに先代の経営者である父が脳梗塞で半身不随となり、筆者がすぐ働かなければならない事態となり、右も左もわからないまま業界に入りました。父は汎用機の時代からまずCADを導入し、紙テープでデータ入力するマシニングセンタ（MC）も導入しました（図1）。

まだ「Windows」のない、「PC-98」の時代です。父のアンテナ感度は高く、その導入までのいきさつは筆者にも影響を与えました。

結果的に、「これからはパソコンの時代だ」と昼間は働きながら夜間に大学に通い、情報工学について学び、「MS-DOS」からWindows、その後の3次元CADの導入、MC用LANの構築などおおいに役立ちました。アナログからデジタルへ金型の製造方法が変遷していくのをリアルタイムで体験できました。汎用・NCにはそれぞれ、メリット、デメリットがあります。モノづくりはあくまでも物質なのでアナログです。でも操作はパソコンや機械のデジタル。この間をどのようにつなげればいいのかを、筆者は常に考えてきました。

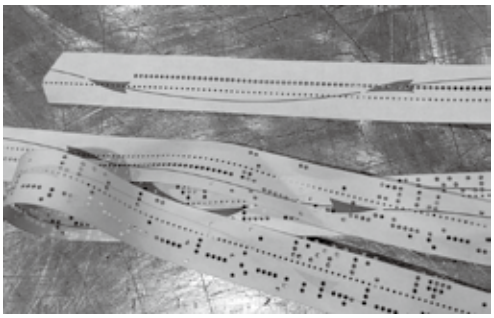

図1　NC加工機で使用した紙テープ

共通言語として技術を学ぶ

「俺が生き字引だ！俺の言うことを聞け！お前なんかにできるわけがない！お前に仕事はやらん！」

これは、私が32歳で社長に就任後、客先のある方から実際に言われた言葉です。

もう、今から20年近く前になりますが、高度成長期を支えた団塊世代の方のパワーは当時強力で、団塊ジュニア世代の若い筆者はどう見ても「ひよこ」と見られていたのでしょう。当たり前です。経験も知識もすべて劣っています。

ただ、そこにヒントを出してくださる方もいました。

「大髙さん、技術だよ。技術があれば生き残れる。学会か協会か、外に出て学んでごらん」

当社は零細町工場で、当然、業界全体での新たな流れの情報が入ってくるわけもありません。言われた通りに、型技術協会や日本鋳造工学会などに参加し、学んでいくとわかりました。「完全に

おおたか　あきひろ：代表取締役／〒224-0044　横浜市都筑区川向町1192-3／TEL：045-474-0077